

お天道さん神楽まつり



「場神楽」を舞う太田黒成紀さん

11月26日、馬見原西部交流センターで、白石神楽保存会が舞いを披露する、「お天道さん神楽祭り」が開催され、会場を埋めた地域の方々をはじめ、九州各地から来た神楽ファンを前に、「地荒神」、「場神楽」など10座を披露しました。

昨年、33座全ての演目が完全復活した白石神楽。今年は白石神楽保存会に、発足以来はじめてとなる新メンバーが加入。今年は11人で望む神楽祭りでした。

加入したのは、太田黒弘明さんと成紀さんの兄弟。二人は揃って「場神楽」という演目で初舞台を踏みました。緊張のせいか、動きが揃わないこともありましたが、無事に舞いを終えました。

週1回の練習を重ねてきた白石神楽保存会。会長の佐藤孝義さんは「二人の加入は本当にうれしいことです。」と頬をゆるませ話してくれました。



地荒神



有働 信宏さん。(うどう のぶひろ) 昭和58年生まれ。高校卒業後、西村驍さん・直さん(玉名市)の下で修行し、削蹄師に。父・兄とともに阿蘇・菊池など県北地方中心に削蹄業務を行う。休みの日も時間を見つけては、削蹄道具の手入れをするという、まじめな28歳。

牛削蹄競技大会で 最優秀賞 有働信宏さん

10月26日、茨城県水戸市で行われた第53回全国牛削蹄競技大会(日本装蹄師会主催)で、有働信宏さん(花上)が最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞。この大会での県勢の最優秀賞は、彼の師匠、西村直さん(玉名市)以来18年ぶり、平成15年に2位だった父、誠志さんを超える成績を残しました。



父とがっちり握手した瞬間に賞を取った
実感がわいた

昨年は口蹄疫の影響で自粛されたため、2年ぶりの開催となった全国牛削蹄競技大会。全国各地での予選を勝ち抜いた24人が日ごろ鍛錬した削蹄の技術を競い合いました。

牛の削蹄とは、牛の蹄(ひづめ)を削ることですが、伸びた蹄を削るといっても、そう簡単なことではありません。偶蹄である牛は、1脚1蹄の馬に比べ、内と外の蹄が微妙なバランスで体重を支えています。そのため、伸びすぎると変形蹄となりやすく、それがストレスとなつて、肉牛であれば肉質に、乳牛であ

れば牛乳の質に大きな影響を与えかねません。削蹄は飼養管理の重要な技術の一つなのです。さらに、脚をあげる習慣がない、500kgにもなる成牛の脚を持ち上げて行う作業のためかなりの重労働です。

競技大会は、2つの競技で行われます。ひとつは、牛1頭を観察し、40分以内にその牛に適した削蹄を判断しマークシートに記入、判断能力を競う「削蹄判断競技」。もう一つは、牛1頭を40分以内に削蹄し、その仕上がりを競う実技、「牛削蹄競技」です。

8月に鹿児島県霧島市で行われた九州大会で上位8位内に入り、自身初の全国大会行きを決めた信宏さん。しかし、全国大会の決勝当日は風邪をこじらせてしまいます。しかも、実技で当たった牛が興奮した状態。上位入賞をはたすどころか、牛も自身もけがをしかねない状況だったとか。

「そのことで開き直ることができた。緊張することなく普段どおりのことができた。」と、逆境を乗り越え、適確な削蹄で最優秀賞の栄冠を勝ち取りました。

信宏さんは蘇陽高校卒業と同時に削蹄師の道へ。玉名市の西村驍さん、直さん親子のもとで4年間修行します。驍さんは県内の削蹄師でつくる熊本県装蹄師会の前会長。二人とも全国大会最優秀賞経験者という恵まれた環境のもとで修行を

重ね、削蹄師の資格を取得。現在は、父誠志さんと兄守宏さんとともに、町内はもとより、菊池・阿蘇方面を中心に依頼を受けて削蹄の仕事をしています。

審査結果の発表を聞いても、すぐにはピンとこなかったそうです。「発表後に父と握手した瞬間に、最優秀賞を取ったという実感とうれしさがわきました。」と、同じ削蹄師である父誠志さんの働く姿をみて、この道を選んだという信宏さんらしい言葉。

一緒に仕事をする、父のすごさがよくわかる。自分はまだまだです。」と、日本一の称号も謙虚に受け止め、ひたむきに削蹄という仕事に向き合う、信宏さんの姿勢がとても印象的でした。



削蹄師が使う道具。2種類の鎌形蹄刀(右)と鉋(左)、仕上げ用のヤスリ(手前)。削蹄はケガがつきもので、信宏さんの手には複数の傷跡がありました。

九州山地を彩る文化の豪華競演!

- 神楽 仁瀬本神社神楽(山都町)
- 白石神楽(山都町)
- 国指定重要無形民俗文化財 高千穂の夜神楽(宮崎県高千穂町)
- 国選択無形民俗文化財 中江岩戸神楽(阿蘇市波野)
- 鞍岡祇園神楽(宮崎県五ヶ瀬町)
- 歌舞伎 宮崎県指定無形民俗文化財 大人歌舞伎(宮崎県日之影町)
- 太鼓 大阿蘇蘇陽太鼓「喜楽」(山都町)

今年で10回目を迎える九州山地神楽祭りが開催されます。仁瀬本神社神楽や白石神楽など九州山地の神楽と、宮崎県日之影町の「大人(おおひと)歌舞伎」も初参加、全6団体による豪華競演です。また、大阿蘇蘇陽太鼓「喜楽」も登場、魅力的な演奏を披露します。会場入口のホールでは、「おもてなしの物産フェア」も同時開催されます。

問い合わせ・申し込み先
山都町蘇陽総合支所産業振興課 TEL83-1111



第10回九州山地神楽祭り

1月28日(土) 午前10時~午後5時

会場 蘇陽総合支所大ホール
料金 1,500円(中学生以下無料)
※町内の方は、事前予約で1,000円に!
申し込み期限 1月20日(金)
※定員(300人)になり次第締め切ります。